

テーマ別シンポジウム | 学校保健体育研究部会：【課題B】体育・スポーツ・健康科学は、学校保健体育の進展にいかに関与できるか

📅 2025年8月28日(木) 15:00 ~ 17:00 📍 記念講堂(教育研究棟 1街区 B階 1B01)

[2a204-06] 学校保健体育研究部会【課題B】テーマ別シンポジウム／身体の主体的・対話的学びから「深い」学びへ

コーディネーター:大塚 光雄(日本体育大学)、梶田 和宏(京都先端科学大学)

我々は実社会に求められる学校保健体育の課題を「身体」の教育と定め、児童生徒が主体的・対話的に学ぶ学校保健体育の可能性を検討している。昨年度のシンポジウムでは、変動練習の授業実装例の紹介から「身体を知る、護る、楽しむ」ことの重要性、バイオメカニクス研究による測定が児童の主体的・対話的な学習につながる可能性、自己調整学習の紹介を通じた児童生徒の主体的な学びを促す可能性、大学体育が再検討すべき課題と主体的・対話的な学びを高校から大学へ拡張する見通しが提案された。さらに、学びの一連のプロセスとして「内化・外化・新内化」が紹介され、ICTやAIの活用による効果について討議がなされた。

本年度のシンポジウムでは、学校保健体育の真正の学びの実現に向けて、ICTやAI等の技術支援の見通しを共有し、近年注目されているライフパフォーマンスと連携させることで児童生徒の学びが深化する可能性を検討する。この検討から、「身体」の教育を通底させた学校保健体育・スポーツ科学の新たな連携を提示し、「内化・外化・新内化」の往還が学校保健体育の真正の学びを実現すること、それがライフパフォーマンスの向上の一助となることを提案したい。

[学校保健体育-SB-1]

拡張のみのちのりとしての「外化・内化・新内化」

その技術支援と「深い学び」への展望

*山田 孝禎¹ (1. 福井大学)

[学校保健体育-SB-2]

ハイパフォーマンススポーツのライフパフォーマンス向上への汎用可能性を探る

*清水 和弘¹ (1. 独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター)

[学校保健体育-SB-3]

「身体」から見出すリテラシー教育としての学校保健体育

*高橋 浩二¹ (1. 長崎大学)

テーマ別シンポジウム | 学校保健体育研究部会：【課題B】体育・スポーツ・健康科学は、学校保健体育の進展にいかに関与できるか

📅 2025年8月28日(木) 15:00 ~ 17:00 📍 記念講堂(教育研究棟 1街区 B階 1B01)

[2a204-06] 学校保健体育研究部会【課題B】テーマ別シンポジウム／身体の主体的・対話的学びから「深い」学びへ

コーディネーター:大塚 光雄(日本体育大学)、梶田 和宏(京都先端科学大学)

[学校保健体育-SB-1] 拡張のみのちのりとしての「外化・内化・新内化」 その技術支援と「深い学び」への展望

*山田 孝禎¹ (1. 福井大学)

<演者略歴>

金沢大学教育学部卒業、金沢大学大学院教育学研究科修了、金沢大学大学院自然科学研究科修了、博士(学術)。福井工業高等専門学校講師、福井大学教育学部講師・准教授を経て同大学教授。日本体育測定評価学会理事。

コロナ禍を経て、ICTを活用した実践をさらに推し進めようとする動きが高まった。この動きの中で試行錯誤されてきたICTの活用方法は、対話的な学びに一定の貢献を果たしていると評価される一方で、技能の獲得や改善・向上に直結させようとするものであるようにも捉えられる。学習者の興味・関心や学習意欲を高め、さらに主体的で対話的な学びを促進し、「深い学び」へ繋がられるようなICTの活用方法が求められる。とりわけ、学校保健体育領域においては、動きの可視化・客体化を目的にICTが活用される場面が多いが、動画撮影・閲覧に留まっているケースが大半である。ICTとバイオメカニクスあるいは運動生理学等の分野で代表される動きのキネマティクスや筋電図あるいは心拍数等とを組み合わせ、簡便にかつリアルタイムで授業実践に活用されているケースは稀である。導入に向けて、経済的なハードルをはじめ、授業者の活用スキル(パラメータの選択や提示方法)、学習者の情報を読み取る力(情報量や読み取り方)等、多くのハードルが想定される。本発表内容が今後の学校保健体育分野におけるICTの活用を通じた「深い学び」のきっかけになることを祈念する。

テーマ別シンポジウム | 学校保健体育研究部会：【課題B】体育・スポーツ・健康科学は、学校保健体育の進展にいかに関与できるか

⌚ 2025年8月28日(木) 15:00 ~ 17:00 🏛 記念講堂(教育研究棟 1街区 B階 1B01)

[2a204-06] 学校保健体育研究部会【課題B】テーマ別シンポジウム／身体の主体的・対話的学びから「深い」学びへ

コーディネーター:大塚 光雄(日本体育大学)、梶田 和宏(京都先端科学大学)

[学校保健体育-SB-2] ハイパフォーマンススポーツのライフパフォーマンス向上への汎用可能性を探る

*清水 和弘¹ (1. 独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター)

<演者略歴>

筑波大学第一学群卒業、筑波大学大学院体育研究科修了、筑波大学大学院人間総合科学研究科修了、博士（スポーツ医学）。早稲田大学スポーツ科学学術院助手、筑波大学スポーツR&Dコア研究員、独立行政法人日本スポーツ振興センター研究員・前任研究員を経て同センター副主任研究員。筑波大学体育系准教授（連携大学院）。

競技における最大限のパフォーマンス発揮には、体力や技術、心理に加え、疾患、用具、スケジュール、戦略・戦術等、多岐にわたる要因を望ましい状態に調整すること（コンディショニング）が求められる。コンディショニングは、アスリート自身がその知識や技能を備えて主体的に実践・継続できるようになることが重要であり、そのための支援が必要である。例えば、演者はコンディショニングの相談窓口（免疫機能を数値化し、主観や運動、睡眠、リカバリーを鑑みたコンディショニングを提案）、ハンドブックやセミナーを通じて、アスリートのコンディショニングのリテラシー向上を図った試みを進めている。このようなハイパフォーマンススポーツのコンディショニングの知見はライフパフォーマンスの向上に貢献できる可能性があり、その検討や取組みが始まっている。コンディショニングの知識や技能の習得、習慣化は早期になされることが望ましく、学校教育は最適な場であると考え。しかし導入には、学習指導要領や教員の負担、コスト、学習者の運動・スポーツへの興味・関心等、様々な観点の検討が必要である。本発表は、その課題解決の糸口を見出す場にてできればと考える。

テーマ別シンポジウム | 学校保健体育研究部会：【課題B】体育・スポーツ・健康科学は、学校保健体育の進展にいかに関与できるか

2025年8月28日(木) 15:00 ~ 17:00 記念講堂(教育研究棟 1街区 B階 1B01)

[2a204-06] 学校保健体育研究部会【課題B】テーマ別シンポジウム／身体の主体的・対話的学びから「深い」学びへ

コーディネーター:大塚 光雄(日本体育大学)、梶田 和宏(京都先端科学大学)

[学校保健体育-SB-3] 「身体」から見出すリテラシー教育としての学校保健体育

*高橋 浩二¹ (1. 長崎大学)

<演者略歴>

千葉大学教育学部卒業、上越教育大学大学院修了、東京学芸大学連合大学院修了、博士（教育学）。大阪産業大学講師を経て長崎大学准教授。日本体育・スポーツ哲学会理事、日本体育・スポーツ・健康学会体育哲学専門領域運営委員。学校保健体育研究部会部会員（副部会長）。

本発表では、大学を含む学校保健体育における「身体」の教育を概観し、その教育と近年注目されているフィジカルリテラシーやライフパフォーマンスの向上との関係について検討する。例えば、フィジカルリテラシーは身体活動に取り組む全ての者にとって育成可能であり、学校保健体育における真正の学びや本質的な問いの設定に繋がる。また、ライフパフォーマンスの考え方は学校教育における「生きる力（未来を生き抜く力）」と類似する点が多く、この能力の向上は学校保健体育の目的の一つとなり得る。特に、学校保健体育では、主体的・対話的に学習（修）を進める過程で自己の心身の変化を自覚しながら調整して対応したり、先を見通す力が養われる。そこには他者への気付きも含まれ、生涯にわたる身体活動への動機、自信にも繋がるだろう。しかし、それらの適用には競技力の向上といった先鋭化の問題や数値による評価といったメリトクラシーの問題が生じる可能性があり、スポーツ科学や健康科学の知見を学校保健体育と連携させる際には注意する必要がある。学校保健体育で育成される能力は時代の要請によって変化するが、その基盤は「人間の身体」であり続けることになる。